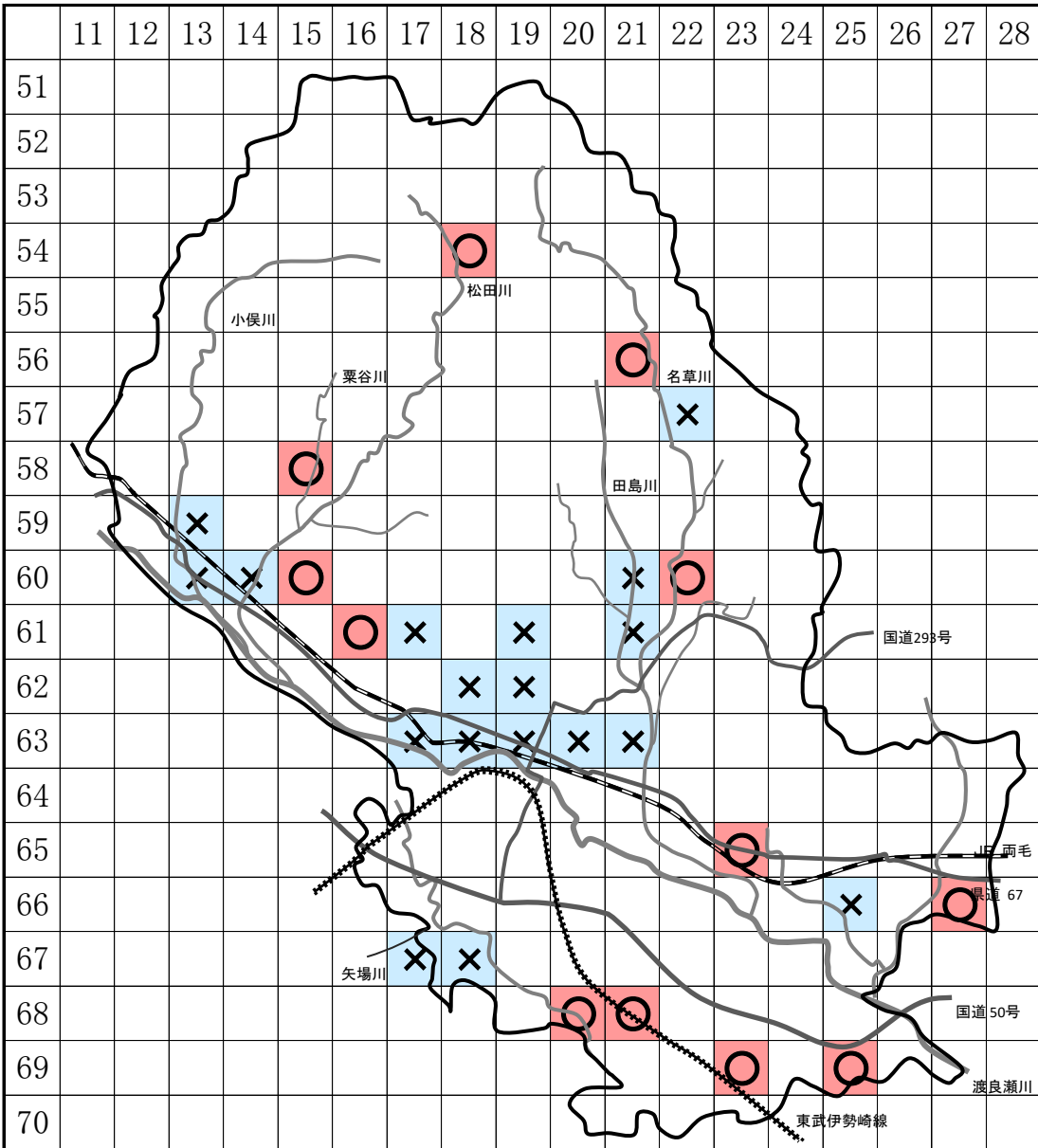
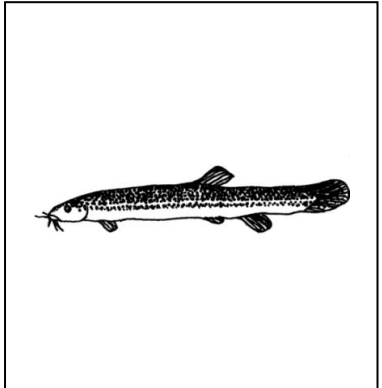


ど じ よ う	確認数： 12 メッシュ
	報告数： 30 メッシュ
	2022年度 12/30 2021年度 19/32

※過年度 確認数/報告数



しょうどうぶつや藻類などを食べる雑食性で、5月から7月が産卵期。雄のほうが雌よりやや小さく胸ビレが比較的長いようである。

えらでの呼吸の他に腸での呼吸もできるため、直接水の表面から空気を吸い込むようすがみられる。さらに、皮膚でも呼吸できるため水がない渇水期には、泥の中で過ごす。

かんさつてきき
観察適期
がつ がつ
4月～10月

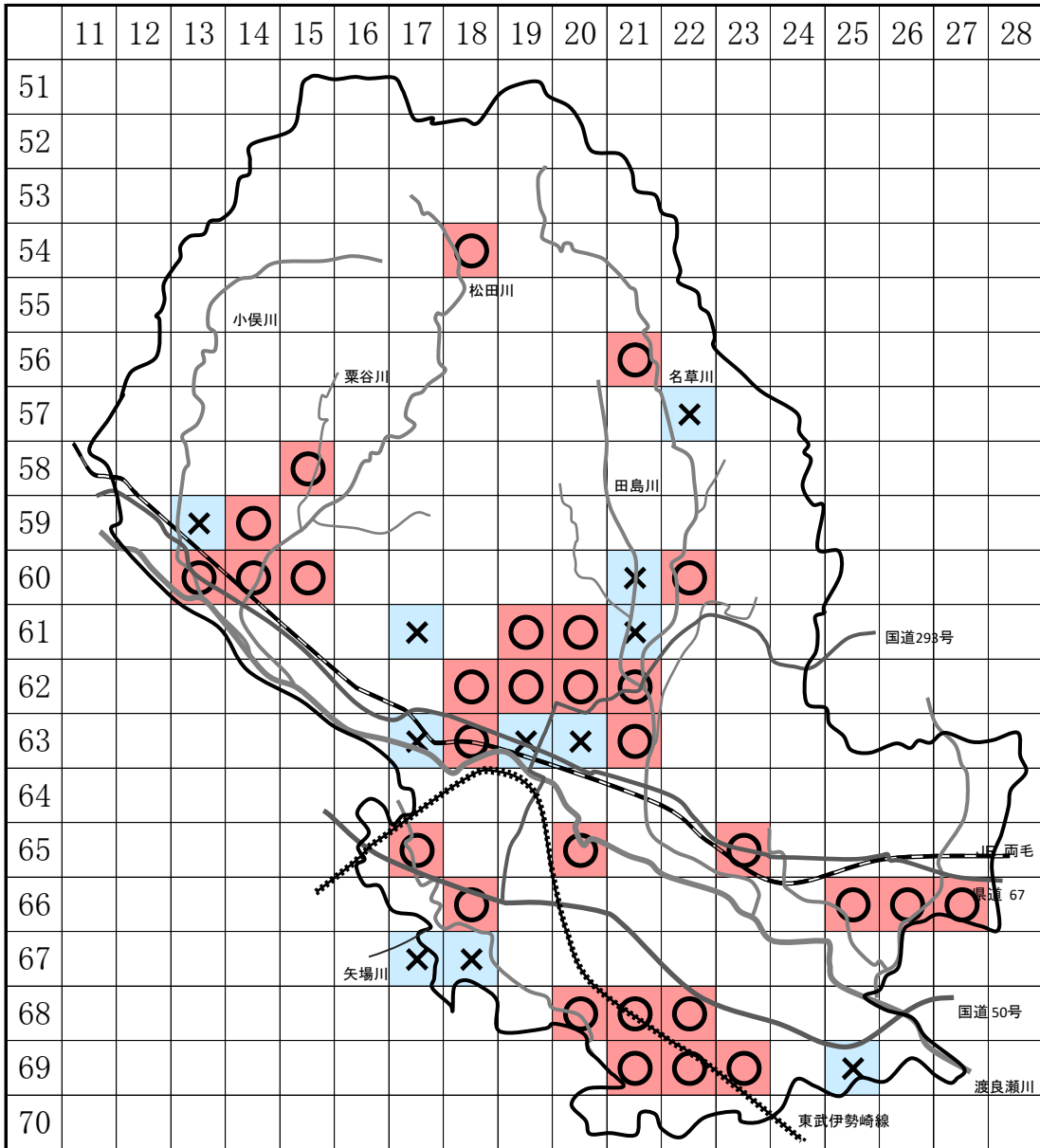
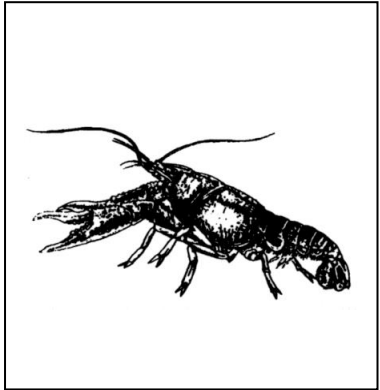
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

とくに、市の中心部から北部にかけて、生息域が減ってきている様子が見られることが心配です。一方で、国道50号線より南の地区を調査していただき、4メッシュで発見報告があったことはいずれも素晴らしいと思います。継続して複数年にわたって同じメッシュを調査していただいているレポーターの方がいらっしゃるのことがわかります。引き続き今後も調査をお願いします。

アメリカザリガニ	確認数： 29 メッシュ
	報告数： 40 メッシュ
	2022年度 30/38 2021年度 33/40

※過年度 確認数/報告数



しょうわのはじめ、食用として輸入され全国に広まった。いわゆる“帰化動物”の代表。(ただザリガニというと日本特産の種類で、アメリカザリガニよりやや小さい。北海道・東北北部の水のきれいな河川・湖沼にすむ。)

2023年6月1日から条約に基づいて特定外来生物に指定。

かんさつてきき 観察適期
5月～10月

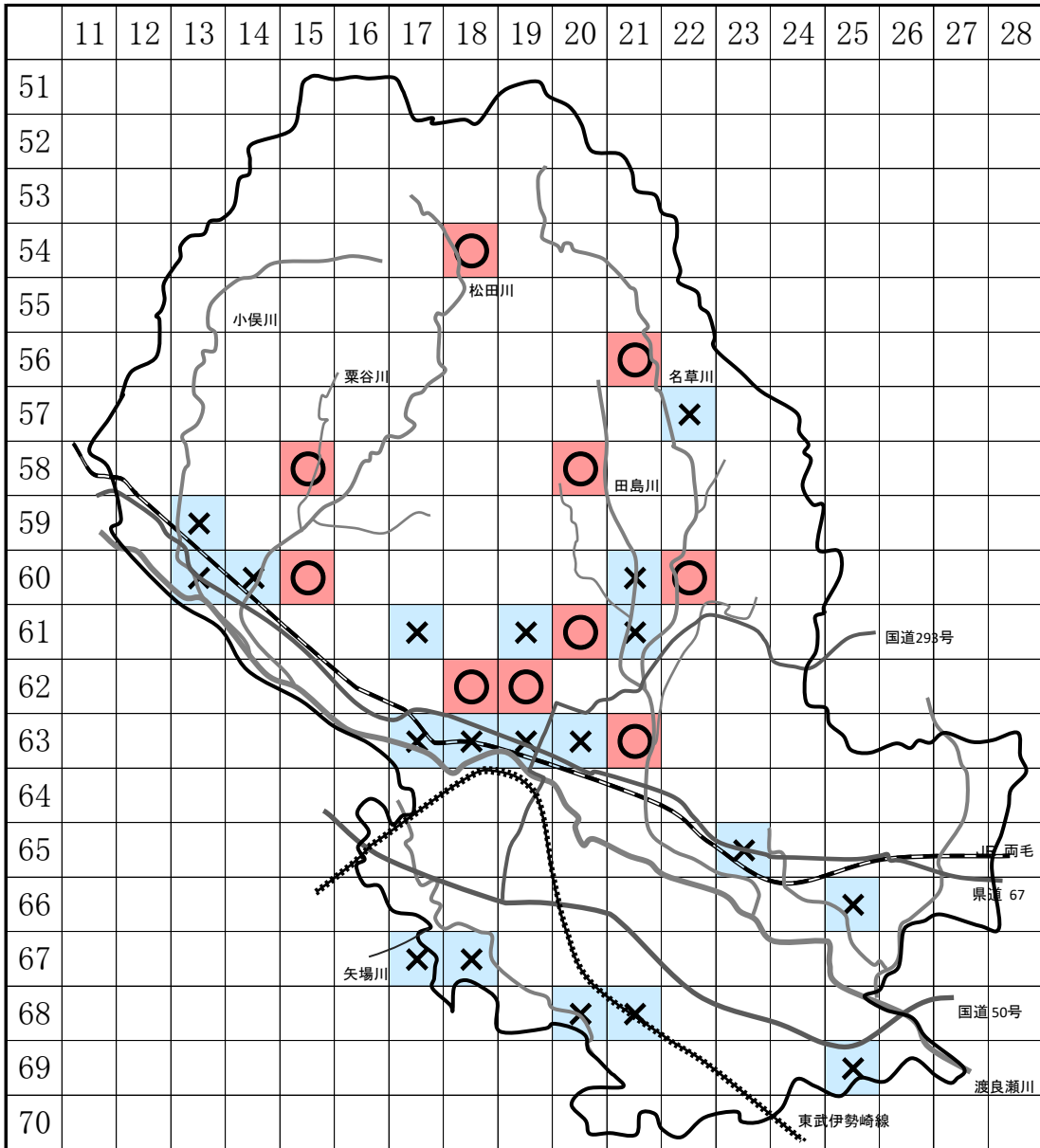
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

今まで常に発見されていたメッシュで、発見できなかった場所が数カ所あり、心配です。河川の周囲で日陰を作る植物の減少なども見られ、気温上昇と合わせて夏の水温上昇を引き起こしている可能性が高く、他の生物によって食べられてしまうなど、様々な要因が重なって、個体数が減ってきていると思われます。

サ ワ ガ ニ	確認数： 10 メッシュ
	報告数： 29 メッシュ
	2022年度 9/31 2021年度 11/31

※過年度 確認数/報告数



にほん 日本ではただ一種の
淡水産のおなじみのカニである。水のきれいな小川や山地の溪流に見られる。甲の色は茶褐色、うす青色、うす黄色などの変化がある。近年、水の汚れが進み、次第に生息場所がせばめられてきている。

観察適期
5月～10月

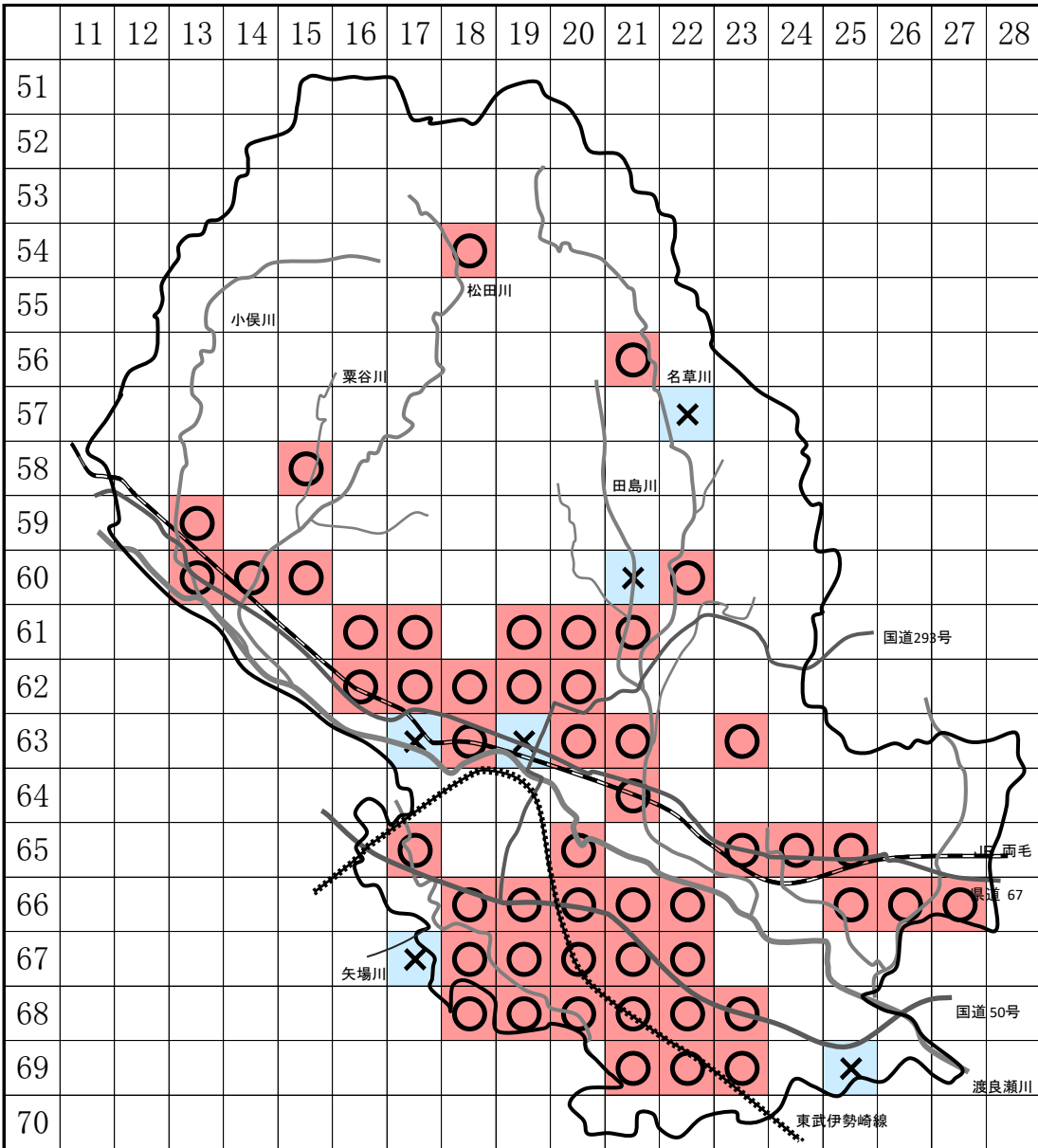
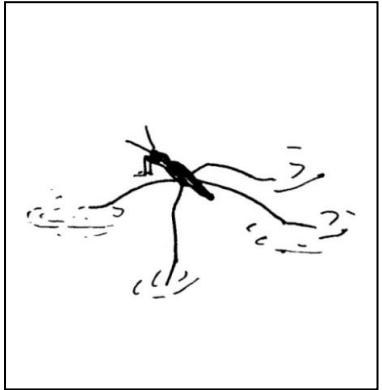
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

市の南部に調査範囲を広げていただいたレポーターの方に感謝します。しかし、やはり市の南部ではほとんど棲息しているメッシュは無くなっているようで、心配です。生息している場所が市内全域で限られてきていると言えそうです。

ア メ ン ボ	確 認 数 : 50 メッシュ
	報 告 数 : 56 メッシュ
	2022年度 41/44 2021年度 43/44

※過年度 確認数/報告数



ながあしすいめん
長い足で水面をスイ
かつそう
スイと滑走するおなじ
みこんちゆう
みの昆虫で、あめのよ
うなあま
うな甘いにおいをもっ
ている。いけぬまかわ
池や沼、川に
ふつうみ
普通に見られる昆虫で
こんちゆう
ある。

かんさつてきき
観察適期
がつがつ
5月～9月

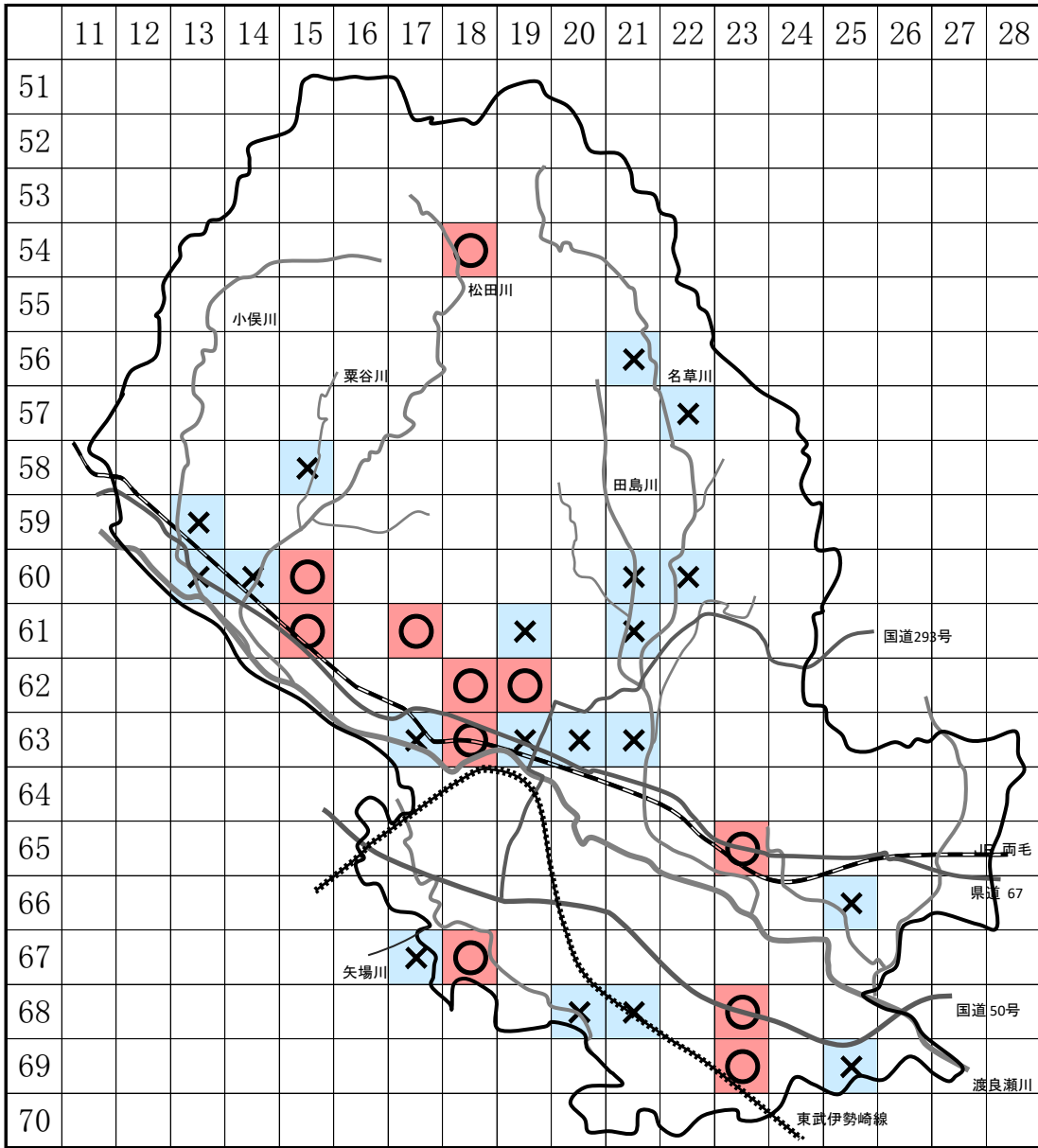
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調 査 結 果

つね はっけんりつ
常に発見率が100%に近い状況でしたが、ちか じょうきょう
発見率が下がってきているため、やはり気候の変化の
えいきょう
影響がアメンボにも出てきている可能性があるとおもわれます。ひこう
飛行する昆虫なので、せいそく
生息しやすい
かんきょう もと いどう
環境を求めて移動しているようです。今後さらにこの分布が変化しないように見守っていきたく
おも
思います。

<h1>アズマヒキガエル</h1>	確認数： 11 メッシュ
	報告数： 30 メッシュ
	2022年度 12/32 2021年度 10/29

※過年度 確認数/報告数



ふつうガマガエルとよんでいる。平地や山地に見られ、人家の庭などにも現れるが、最近は少なくなっている。産卵期以外は水に入ることはほとんどない。河や池の周囲のくぼみや落ち葉の下などにかくれている。また夜行性のため、あまり人目につかない。

かんさつてきき
観察適期
がつ さんらんき
3月 産卵期
がつ
6月～8月

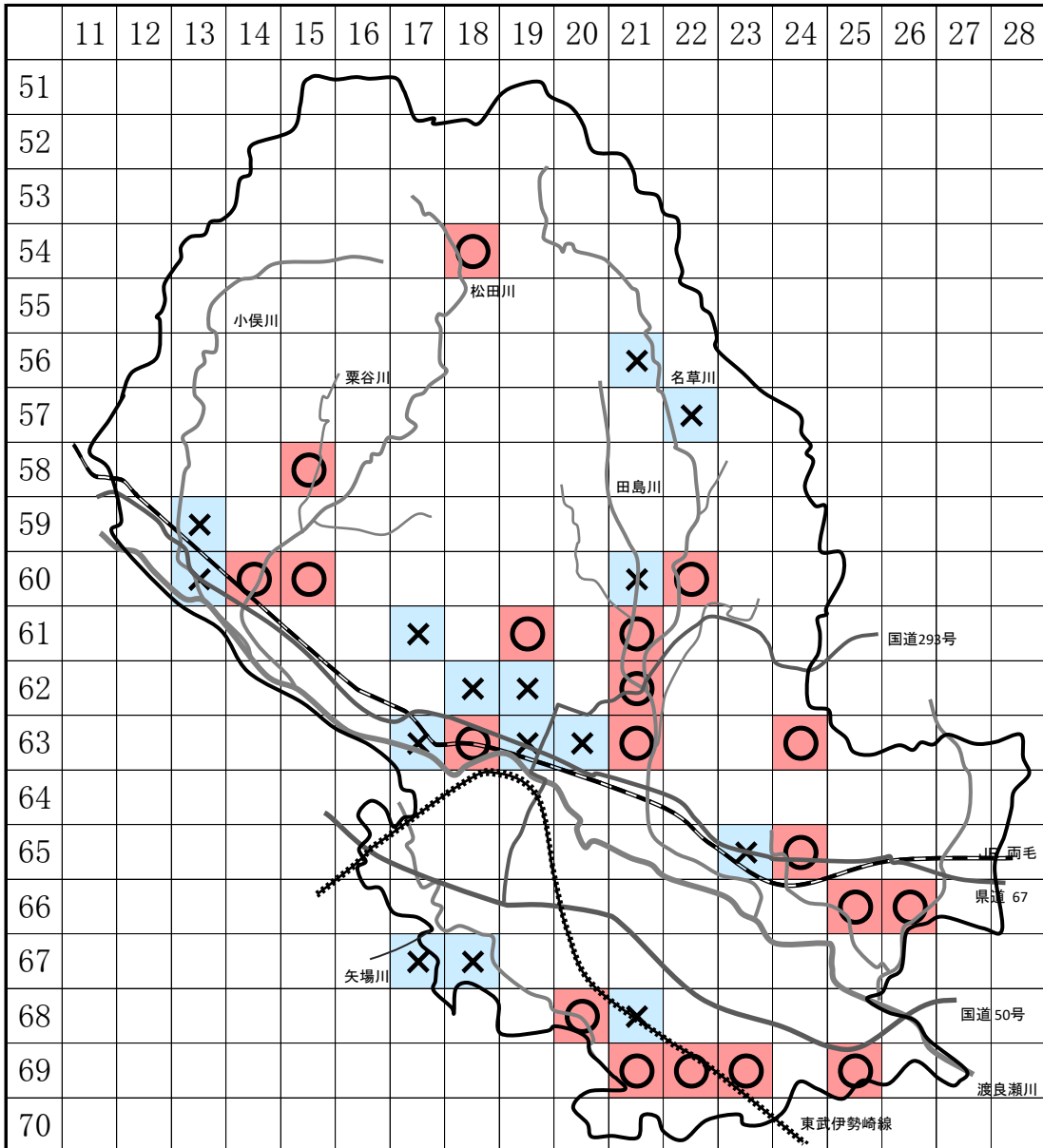
- 生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

新しく生息発見報告がされたメッシュが増えているため、少し安心しました。毎年継続して発見報告がされているメッシュとあわせて、今後も観測を継続しつつ、新たな発見場所が増えることを期待しています。産卵から幼生（オタマジャクシ）が育つまでの水辺の環境の大きな変化には注意したいです。

<h1 style="margin: 0;">ウシガエル</h1> <p style="margin: 0;">(食用ガエル)</p>	確認数： 19 メッシュ
	報告数： 34 メッシュ
	2022年度 21/36 2021年度 21/34

※過年度 確認数/報告数



食用のため北アメリカから1919年に輸入され日本各地に広がった。平地の池や、幅広い溝や小川など水量の多い場所にすみ、夜間になるとウシのような大きな声で鳴く。行動はすばやい。

観察適期
6月～8月

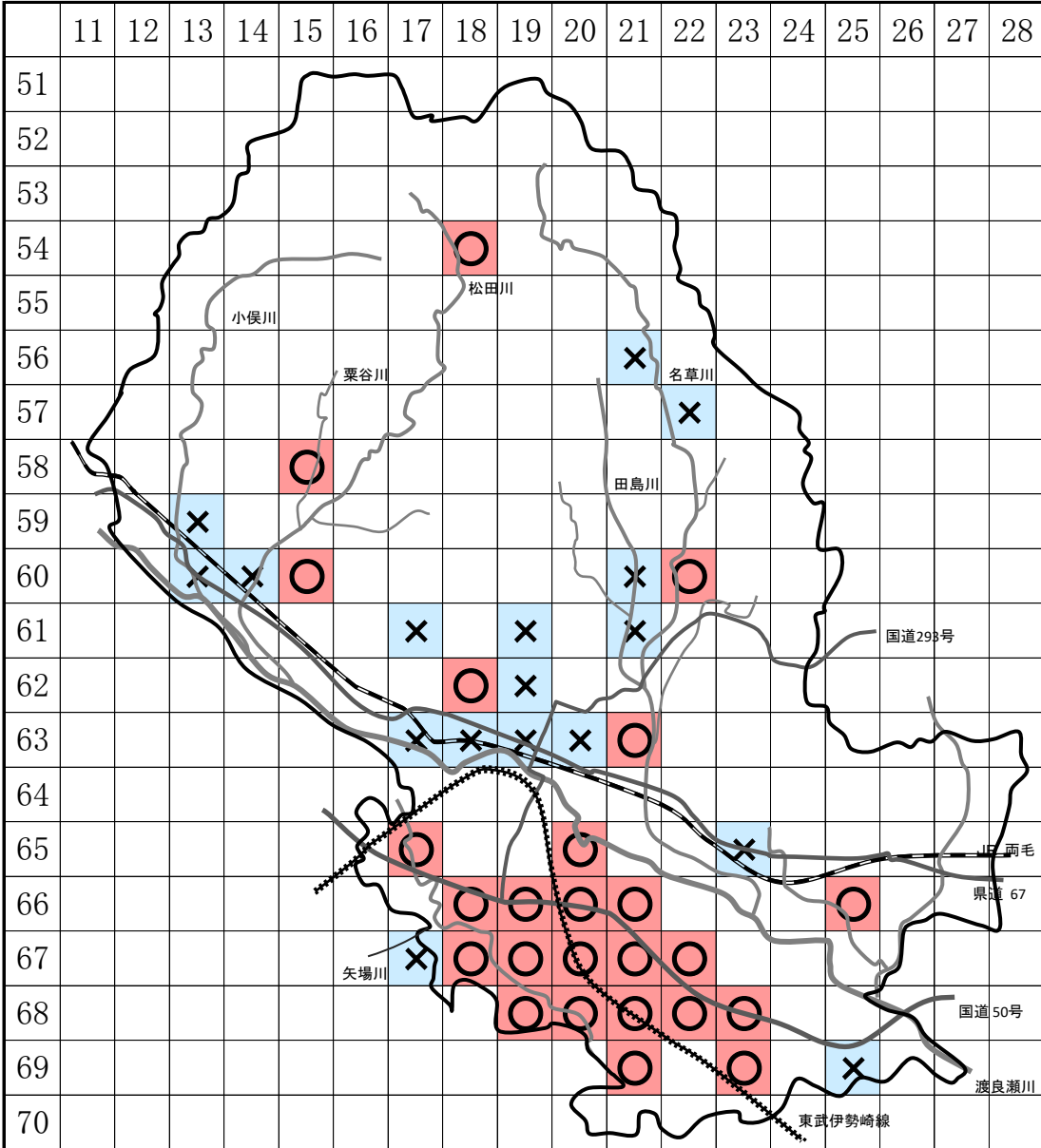
- 生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

河川の岸边から、注意深く鳴き声や動きの様子を観察していただいていることが報告書のコメントから伝わってきます。生息環境が厳しくなっている中で、大きく生息メッシュ数を減らすことなく生息しているようです。ウシガエルでも新しく発見報告メッシュが出ていることから、レポーターの皆さんの熱意を感じます。

トウキョウダルマガエル	確認数： 25 メッシュ
	報告数： 42 メッシュ
	2022年度 20/36 2021年度 19/30

※過年度 確認数/報告数



このあたりではトノサマガエルと言っているが、トノサマガエルは関東にはいない。体長50～60mmぐらいで、トノサマガエルに比べてやや小さく、体形は太めである。口先から後方にかけて灰褐色の地に、一部または全部が緑色をしている。斑紋は黒褐色、ほぼ円形で数が少ない。

かんさつてきき
観察適期
がつ がつ
6月～9月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

渡良瀬川の南の多くのメッシュで、発見報告がありうれしく思います。朝の散歩などに合わせて、夏休み前後の水田の用水路などで、鳴き声を頼りに多くの発見が報告されているようですので、今後も広い範囲で継続して調査をお願いします。

ニホンアマガエル (アマガエル)

確認数： 42 メッシュ

報告数： 47 メッシュ

2022年度 38/41 2021年度 36/42

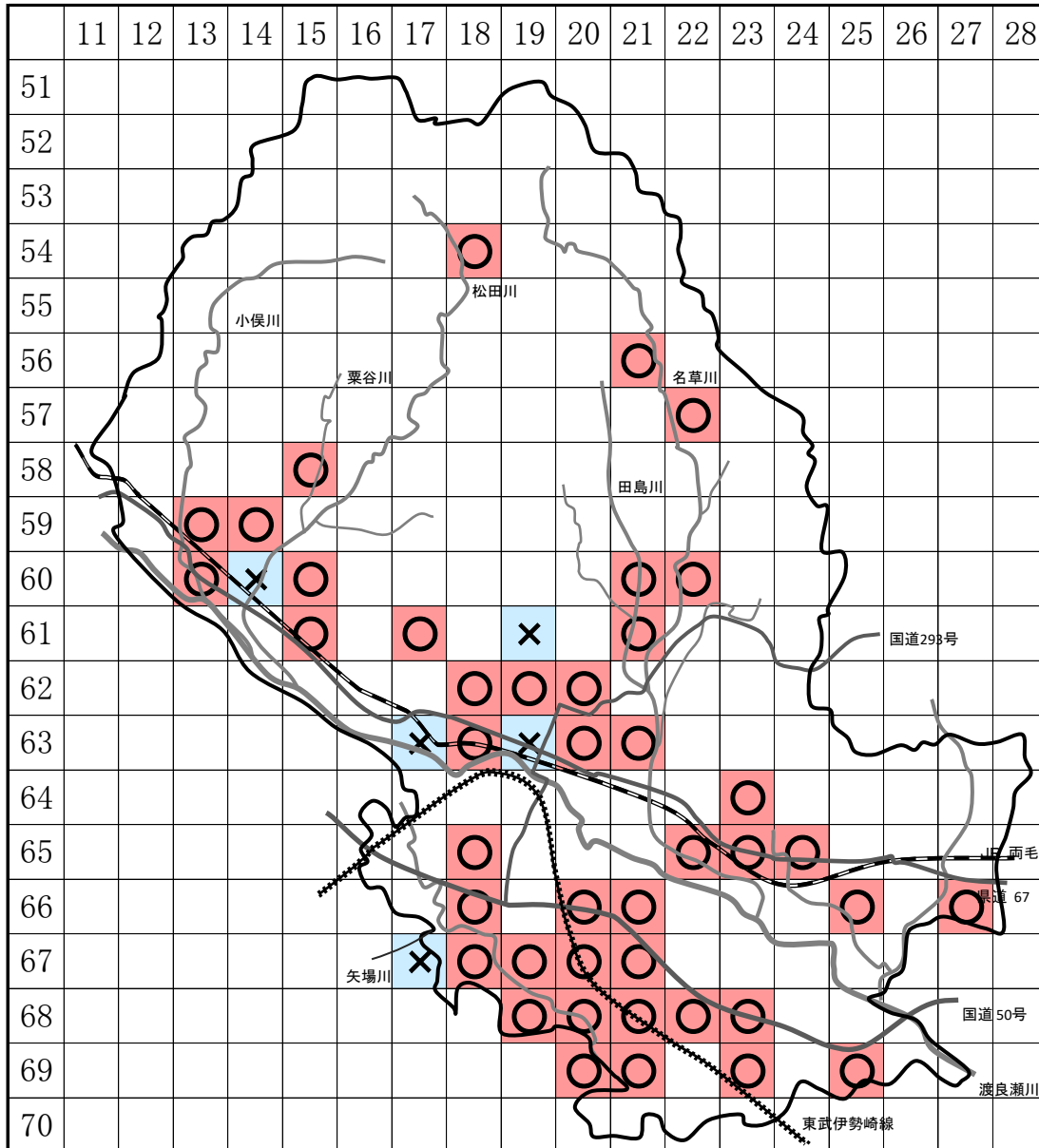
※過年度 確認数/報告数



人家の植え込みや、
人家に近い低木、葎む
らにすむ。雨が近づくと、
木や草の葉の上で
さかんに鳴く。指の先の
吸盤や緑色の体色は
樹上生活に適している。

周囲のものに合わせて
体色を変化させる。
秋以降になると土の中
や石垣のすき間で冬眠
する。

観察適期
5月～10月



- 生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

わが家の裏の水田がなくなり、ここ数年は産卵時期の鳴き声を聞く回数が減って心配していましたが、多くのメッシュで発見報告がされ少し安心しました。しかし、調査対象の水辺の生物全体で調査メッシュあたりの生息数の減少を心配する声が寄せられています。地球沸騰化といわれるようになり、今後も環境の変化をしっかりと見守っていかねばならないと強く感じました。